



災害人文学研究会
2018年度第6回研究会

『ドキュメンタリー映画
『赤浜ロックンロール』を観る』

2018年
12月4日
(火)
18:15~20:30

プログラム

映画上映 | 18:15 ~ 19:50

意見交換 | 20:00 ~ 20:30

意見交換 登壇者

小西晴子氏

(『赤浜ロックンロール』監督)

坂口奈央氏

(東北大学大学院文学研究科博士課程後期課程)

会場

東北大学川内北キャンパス
講義棟B棟101室
(宮城県仙台市青葉区川内41)

交通アクセス

- ・駐車場はございません。地下鉄東西線をご利用ください。
(最寄駅 / キャンパス直結 : 川内駅)
- ・東北大学インタラクティブマップでは位置情報の取得が可能です。「川内 講義棟 B 棟」と検索してご利用ください。
(<http://www.tohoku.ac.jp/map/ja/>)

参加費

無料

問い合わせ先

参加定員

100名

saigaijinbungaku@gmail.com

主催 .. 東北大学東北アジア研究センター
共催 .. 指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点
災害人文学ユニット



指定国立大
災害科学 世界トップレベル研究拠点

上映作品『赤浜ロックンロール』

弁天様を祀る蓬莱島(ひょっこりひょうたん島のモデルの島)が浮かぶ町、岩手県大槌の赤浜で生まれたロックを愛する漁師・阿部力(つとむ)は「漁師は水揚げしてなんぼ」と、海で体をはって来た。2011年、東日本を襲った大震災で、町を「土色の壁のような波」が襲った。最大22mの津波と火災により、死者・不明者1280余人、町の85%が喪失した。半年後、国と県は5階建てビルと同じ、14.5mの高さの巨大防潮堤で海岸線を囲う復興計画を決める。「海が見えねえじゃねえか!」そんな中、赤浜の住民は巨大防潮堤に反対の声をあげる。「人間が作ったものは壊れる」津波で家族を亡くした“赤浜の復興を考える会”会長の川口博美は国の提案を拒否。「自然をないがしろにして復興はない」と阿部は、手間ひまかけて育てたワカメ、昆布、ホヤ、牡蠣を、消費者に届けることに心血を注ぐ。自然を抑え込む発想とは違う共に歩む知恵。ここに、わたしたちの進むべき未来もある。

監督:小西晴子
プロデューサー:小西晴子/安岡 卓治
エグゼクティブプロデューサー:中野秀紀
出演:阿部力/川口博美/小石道夫/芳賀政和
撮影:古戸英彦
編集:辻井潔
編集助手:吉田拓史
構成協力:澄川嘉彦
音響構成:渡辺丈彦
製作:ソネットエンタテインメント
配給・宣伝:太秦
【2014年/日本/90分/BD/ドキュメンタリー】



意見交換 登壇者紹介

小西晴子 (こにし・はるこ)

2003年から、土本典昭、黒木和雄、原一男など日本のドキュメンタリストを追ったシリーズ「ドキュメンタリスト」を制作。2004年9月、制作した番組「ドキュメンタリスト 綿井健陽〜The Little Birds バグダッドの父と子の物語」を、2005年に映画『Little Birds イラク 戦火の家族たち』(2005年/綿井健陽監督)として公開。企画者として参画。このシリーズから映画になったものは、『ガーダ パレスチナの詩』(2006/古居みずえ監督)、『大きな家 タイマグラの森の子どもたち』(2009/澄川嘉彦監督)などがある。2012年から海外との共同制作を企画し、2013年 Tokyo Docs、2014年中国成都でのAsian Side of the Doc、フランスのラ・ロシェルでのSunny Side of the Docで企画をプレゼン。プロデューサーとして「イラク チグリスに浮かぶ平和」(2014年/綿井健陽監督)の上映、海外展開をすすめている。2015年1月フランスで開催されたFIPA(Festival International de Programmes Audiovisuels)では、「イラク チグリスに浮かぶ平和」が、Young Europeans Jury Special Prizeを受賞。「赤浜ロックンロール」は、初監督作品。

坂口奈央 (さかぐち・なお)

東北大学大学院文学研究科博士課程後期課程(専攻:災害社会学・地域社会学)。震災を機に、2012年岩手めんこいテレビ報道部アナウンサーを退職。大学院入学後は、大槌町における防潮堤をめぐる生活者の論理を、地域の社会構造との関連のなかで比較考察した。博士課程では、引き続き生活者の視点に着目しながら震災遺構をめぐる社会調査に従事している。現在、大槌町には地域アドバイザーとしてかわり、大槌町震災記録誌監修などにも携わっている。

指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点
東北大学東北アジア研究センター
災害人文学ユニット

東日本大震災に対応する形で、文化人類学・宗教学・歴史学は災害復興や防災に関わる調査研究事業を行うようになりました。従来、これらの学問分野は基礎研究を基軸とし応用的な側面は副次的な扱いでしたが、震災以降そうした状況は変化しました。具体的に言えば、文化人類学や宗教学は民俗芸能などの無形民俗文化財がもつ震災復興への役割についての実践的調査研究を、歴史学は地域の歴史文書資料に関わる保全活動を行ってきました。本ユニットは、これまで蓄積されてきたこれらの分野における災害に関わる実践的研究の成果を踏まえ、新たな研究領域の開発をふまえて、さらなる発展と総合化を行うことを目的とします。

研究課題

「震災映像のアーカイブ化と防災教育における活用」

災害の状況や体験者の証言、失われつつある地域の伝統行事や芸能などを記録し、背景の物語を交えてわかりやすく紹介する映像記録は、防災教育や被災地の歴史文化の継承・発展を喚起する媒体として文化財という意味もあります。東日本大震災に関連する映像は膨大であり、ドキュメンタリー映画だけでも数百タイトルが製作・上映されています。震災映像による地域社会の防災力を、震災前だけでなく震災後の災いを防ぐという意味も含めて活かすべく、国内はもちろんのこと海外の記録映画の製作者・研究者との研究会の開催および情報発信を通じて、震災映像をつくる・観る・伝える文化の発展と活用の方法論を探ります。

災害人文学ユニット ウェブサイト:

<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/unit/disaster/>